

## 平成 28 年度事業概要(年度計画)

### ❖ 教育・研究組織

- 人文学部，理工学部及び農学生命科学部の改組
- 平成 29 年度設置に向けた教職大学院の設置計画の確定
- イノベーション創出を重視した新たな研究科構想の検討

### ❖ 教育改革

- 教育推進機構の機能強化（教育戦略室，アドミッションセンターの本格稼働，キャリアセンターの新設など）
- 3つのポリシー（AP・CP・DP）の一体的なマネジメント体制の整備
- 教育内容の質的転換（アクティブラーニング，科目ナンバリング，成績評価の厳格化，リメディアル教育など）
- キャリア教育の充実・強化（キャリア教育の体系化，インターンシッププログラム開発）
- 全学的な入学者選抜改革（全学委員会による改革案の検討）
- 大学院共通科目再構築のための各研究科共通の教養教育の在り方の検討
- 障害学生への支援体制の強化（「学生特別支援室」の設置など）

### ❖ 研究推進

- 研究力評価分析に基づく国際水準にある研究活動の推進（新たな研究者支援事業の検討など）
- 地域の特性を活かした研究活動の推進（食，健康，再生可能エネルギー，環境，被ばく医療など）
- 研究パフォーマンス分析及びURA機能の充実による研究支援体制の強化
- 研究シーズのデータベース構築と東京事務所を活用した産学連携機能の強化
- 知的財産の活用促進（企業とのマッチング，知的財産活用マネジメント方法の検討）

### ❖ 地域連携及び地域貢献

- 地域連携及び地域貢献活動の基盤強化（社会連携部の新設）
- COC 及びCOC+事業の推進
- 地域の自治体や経済界等との包括連携協定の拡大・深化
- 生涯学習教育研究センターと各サテライトの連携による地域のニーズに対応した教育機会の拡充
- 附属図書館・出版会・資料館における学術的成果の地域への積極的な情報発信

### ❖ グローバル化

- 教職員・学生の国際交流の推進（新規海外協定校の開拓，海外拠点の積極活用）
- 国際交流科目の充実と英語による授業の拡充
- 日本人学生への海外派遣支援の拡充（HIROSAKI はやぶさカレッジ，学生海外 PBL プログラム）
- 海外からの留学生の受入れ促進（海外大学フェア，国内日本語学校への広報）

### ❖ 附属病院

- 医療安全の組織体制の整備
- 臨床研究等の支援体制の強化（モニタリング，監査の実施など）
- 質の高い医療を提供するための施設・設備等の整備（病棟改修計画の策定，医療機器等の更新など）

## ❖ 附属学校

- 新学部や教職大学院との連携による附属学校園の運営体制の整備
- 教育委員会や公立学校との連携による地域の教育課題の研究方針の策定
- 教員と学生による協働的な省察活動を組み入れた教育実習指導体制の整備

## ❖ 業務運営等の改善

- 学長のリーダーシップとガバナンスの強化（戦略本部棟の整備、IRなど）
- 中長期的視点に立った戦略的な人事管理体制の整備と職員の能力開発（ポイント制の導入、人材育成方針の策定など）
- 戦略的施策を重視した資源配分への転換（トップマネジメント経費の拡充など）
- 「弘前大学基金」の充実等による財務基盤の整備
- 大学改革に対応したキャンパス整備基本方針の策定

## ❖ その他

- 広報活動の強化による大学ブランド力の向上（首都圏での弘前大学フェスタ開催など）
- 男女共同参画の推進（第2期基本計画の策定、女性教員・管理職比率向上のためのポジティブアクション実施など）
- 新入生、新採用職員、新任教員への情報セキュリティ教育の強化（e-ラーニング教材の活用など）

## ❖ 戦略性が高く、意欲的な目標・計画

### 《放射線科学と被ばく医療教育・研究の国際拠点構築》

- 国の被ばく医療機関として、被ばく医療体制の充実と関連機関とのネットワーク構築
- 放射線科学、被ばく医療に関する国際連携、国際共同研究の促進
- 原子力災害医療に対応する人材の育成
- 福島県浪江町における放射線リスクコミュニケーション事業の推進

### 《少子高齢化等に対応した社会医学的観点からの総合的教育研究拠点の形成》

- 社会医学総合研究センター（仮称）の設置
- COI 事業におけるコホート研究の連携強化
- 子どものこころの問題に関する医療的支援、教育・研究活動の推進

### 《地域の特性を活かした持続可能な“青森型地方創生サイクル”確立の先導》

- 県全域の創生・活性化を牽引する戦略拠点「地域連携センター」（仮称）の基本構想の策定
- 北日本新エネルギー研究所、白神自然環境研究所、食料科学研究所を中心に、地域特性を活かした研究活動の展開